|  |
| --- |
| 全道数学教育研究大会**2022年7月28日（木）29日（金）＠小樽明峰高等学校****講演**7月28日11：00～12：00**点の高い子って，良い子でしょうか。****正　田　　　良**（rio1957@gakushikai.jp） |

　ひょんなことで，「教育学B」（今の本務校は国士舘大学文学部です）を担当しました。最初は，持ち込み可の試験対策をしたり，代返したり…の化かしあいになるだろうなと，嫌々ながらでした。

　第1回では，池上彰『学び続ける力』と，『人工知能の見る夢は』（文春文庫）所収の森下一仁「ダッシュ」で，「現代での《知る》」について論じました。

　知ることで見えてくるものがある。その証拠に，ザ・ピーナッツの『ふりむかないで』と，松田聖子＆河合奈保子による同曲（1980年代）との比較。学生さんにとっては，どちらも「生まれても居ない昔」です。でもこれらは同じ「昔」としてみないで，10年ごとの変化（特に算数・数学の学習指導要領とその周辺の社会的状況）が見えて欲しい。そう思ってのことです。日々暮らしていると，変化に気が付かないことがあります。親戚の子どもに10年振りに会って，やあしばらく見ないうちにずいぶん大きくなったね…現象です。

　実は，元ネタがあります。日本教職員組合の2006年の全国教育研究集会・第4分科会（数学教育）全体会で共同研究者として，「今日の政治状況と数学教育」と題してお話しする機会がありました。その後の状況を加えてこの「教育学B」は構想しました。本日のこの講演でも…。

　ここで見えてくることは，人々は，悪意なくその活動をより良くするための工夫をする。しかしそれをより広い社会範囲でみると，また，10年単位の変化を見ると，その意図の有無によらず，とんでもない方向へ日本や社会を導いてしまっている。それを，「点の高い子って，良い子でしょうか。」との視点でいくつかの事柄についてみていきます。

　子どもの作品に注目することの大切さ，そしてそれと同様に，作品としての授業。同じ楽譜（教科書）をもとにしていても，演奏者の作品になる。それは，楽譜を介して，楽曲に対する感動を読み取り，それを聴衆と共有しようとする演奏家の意図によって生まれるものであり，その創造は演奏家にとっても喜びをもたらすものです。

プレゼンの電子ファイルは正田のサイトhttp://kks-el01.sakura.ne.jp/ar09/bucho/x7net/　の「学会での発表」に置きます。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 1960年代高度経済成長期 | 1970年代実は有限な環境資源 | 1980年代英米でのネオコン | 1990年代高度情報社会化 |
| テレビの普及少年マガジン・視聴率が高いことで良い番組とみなされた。※雑談的メモ：檀れいさんにするか，ひかりさんにするか，はたまた，井川遥さんもよいですね。1964　ＩＥＡ第１回 | ・点数が良い子どもが「良い子」のようにみなされた。・高校への進学率増加。落ちこぼし。・普農工商。・高校で，校則などへの疑義・1973金大中事件・ベトナム戦争-19751969東大安田講堂 | **・学習参考書の変質。**興味を持ったことを発展させて調べるためのものから，覚えやすく他人がまとめた成果（赤いフィルター付き）・公教育の軽量化・中学での荒れ・東京等私学ブーム1981　ＩＥＡ第２回 | 「自力解決」を含む平成の４段階指導。「問題解決型授業」の提唱（文部省（1986）『数と式の指導』）。《児童が受動的なことに危機意識》・いじめの陰湿化・都市部小学校高学年での「学級崩壊」1995　ＩＥＡ第３回 |
| ・系統学習・学習指導要領解説のことを「指導書」と名付ける(1960），告示1958・10月 | ・現代化指導要領・米のSMSG，英のSMPは1960年ごろ・対：現代数学・発達心理・数学史 | ・「ゆとり」・ブルームは認知的領域と情意的領域との学力を分ける。日本の子は数学が嫌い | ・多様化・「観点別」の重視・インタネット・教科書の判型。「吹き出し」 |
| 「算数に 強くなるおかあさんの算数教室」タイル（水道方式）　1960年ころ | 仲本正夫『学力への挑戦―“数学だいきらい”からの旅立ち』1979・旬報社 | ・日教組 編『算数の授業』1983・三省堂の数学バイパスシリーズ | 榊忠男・編『操作とゲームによる数学重要教材指導法』明治図書 |
| ≪お勧めの本≫重松清『娘に語るお父さんの歴史』 (新潮文庫など) | 岩波科学の本　東京図書の数学新書◇数学セミナーリーディングズ | 藤澤伸介『ごまかし勉強』（新曜社）／中曽根（1982-87）但し対米貿易摩擦↓ | トフラー『第三の波』（中公文庫）保坂展人『いじめの光景』（集英社文庫） |
| 1960池田勇人首相が「所得倍増計画」 | 1970　光化学スモッグ | サッチャー（1979-90：英）/レーガン（1981-89：米） | バブル景気1986-911997山一證券，拓銀破綻 |

◇学校数学の展望台 (1976.8)|| 新・高校数学外伝 (1982.8)|| 新しい高校数学の展望 (1990.7)||

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 2000年代少子化と規制緩和 | 2010年代「調査」に翻弄される | 2020年代活動が深くなるのか | 2030年代人工知能が…？ |
| 学校の週５日制。学習内容の３割削減。＜軽量化の徹底＞**小泉純一郎内閣**（2001-06）典型的な新自由主義的政策「官から民へ」「聖域なき改革」数値目標（郵政・国立大学）＆「美しい日本」（安倍晋三） | ３割削減からの復帰。　平均点のコンテスト化する「全国学テ」（cf. 1956-64）点数を上げさえすればよいと思う子どもをたしなめていたはずが，今度は学校や市町村が…。 | ・「数学的活動」をすることが，数学の目標であるという見解。コンピテンシー・４つの観点から３つの柱。　知識・理解と技能が同じ軸になるのだけど，分かってできる，できるけど分かってない…の４通り | ・コンピュータを学ぶではなく，「教える」活動。機械はプログラム通りに動くだけの，融通が利かない道具であることを理解し，上手に機械と付き合うことが求められる。 |
| ・規制緩和の裏には，「自己責任」（cf. 社会民主主義の福祉政策） | ・「観点別」の出力をするのに，既製テストをブラックボックスとする評価。 | ・全国学テのＡ・Ｂを統合する。・数値化の次元が多次元から一次元になる危険。 | 作品としての授業を教員が，そして数学と言う作品を子どもが作るにはどうしたよいのか。 |
| （世の風潮として,苦労して大学出ることないし，苦労しなくても入れる） | （少人数クラスでペースを合わせないとならない。） | ←榊先生曰く。お付き合いで速く進めても，わからないなら戻るという無駄に。 | （教研集会でも「スタンダード」化）素直に流れるのを敢えて引っかかること |
| ・本田由紀，2005『多元化する「能力」と日本社会』NTT出版（ハイパー・メリトクラシー） | ・苅谷剛彦，2008『学力と階層』経済格差が学力格差を生じさせる。 | ・東洋，2001『子どもの能力と教育評価（第２版）』東大出版会／清く，正しく，愛深く。 | ・新井素子他　人工知能学会編『人工知能の見る夢は　AIショートショート集』（文春文庫） |
| 2000　ＰＩＳＡ第１回・Ａ計算とＢ活用 | 2007-　全国学力・学習状況調査 | 　容易に検索できるのだが，何を　→ | ↑カワ**セミ**って鳥なの？（ダッシュ） |

**≪プレゼンの構成に関する資料≫**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 通番 | 章・節 |  |
| 1枚目 | 【 | 0.0 | 】 | 表紙 |
| 2枚目 | 【 | 1.1 | 】 | 呼んでくださったことへの謝辞と自己紹介（１：数教協の会員） |
| 3枚目 | 【 | 1.2 | 】 | 呼んでくださったことへの謝辞と自己紹介（２：2005年度から） |
| 4枚目 | 【 | 1.3 | 】 | 呼んでくださったことへの謝辞と自己紹介（３：このごろ…） |
| 5枚目 | 【 | 1.4 | 】 | 1.のまとめとしてのこの講演の概要 |
| 6枚目 | 【 | 2.1 | 】 | 1960年代、テレビが普及 |
| 7枚目 | 【 | 2.2 | 】 | 1970年代への変化。 |
| 8枚目 | 【 | 2.3 | 】 | 「現代化」 |
| 9枚目 | 【 | 2.4 | 】 | ごまかし勉強。 |
| 10枚目 | 【 | 2.5 | 】 | メンタルに入り込む。 |
| 11枚目 | 【 | 2.6 | 】 | 「調査」に翻弄される　 |
| 12枚目 | 【 | 2.7 | 】 | 教育実践の継承。  |
| 13枚目 |  | （資料） | 教員採用試験の競争率 |
| 14枚目 | 【 | 2.8 | 】 | 活動が深くなるのか |
| 15枚目 | 【 | 3.1 | 】 | 作品としての授業をめざして（1：子どもに） |
| 16枚目 |  | （資料） | 取り戻しの現象（佐藤学『学びから逃走する子どもたち』から） |
| 17枚目 | 【 | 3.2 | 】 | 作品としての授業をめざして（2：自己効用感） |
| 18枚目 | 【 | 4.1 | 】 | まとめ（日教組の冊子作りに参画したこと：1） |
| 19枚目 | 【 | 4.2 | 】 | まとめ（日教組の冊子作りに参画したこと：2） |
| 20枚目 | 【 | 4.3 | 】 | お後がよろしいようで！ |

≪参考：講座でお話したことのネタ本≫

「数学教室」別冊　2　『実験数学のすすめ―課題に取り組む楽しい授業』1993国土社

所収：　加藤久和「27このキューブに魅せられて―キューブパズルに夢中―」

・パズル自体は，「Soma Cube」と呼ばれるもので，種々の本に書かれています。

・高さ付き平面図にからめて，関数協の海老名集会（2018）などでお話してきています。

↑　学生さんの卒業研究のために取材をさせてもらいました。

・高さ付き平面図は，少しだけではありますが，正田（1989）『DIME授業書による楽しい数学』明治図書p.89-p.92。でも今回のお話の方が，DIMEのその後の３D幾何の様子をお伝えできています。